

平成28年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の教育目標「自立と社会参加に必要な力を身に付け、社会の一員として健康で心豊かに生きる人を育てる」の達成を目指すとともに、本校の現状と課題を踏まえ、以下の3項目を重点課題として取り組んだ。年度の初めに設定した目標については、どの項目も達成することができた。

(1) キャリア教育の視点に基づく授業改善の実施

小中高の各学部の担当者が含まれる縦割りグループ(肢体不自由学級、音楽、体育、生活単元学習、作業学習)を編成し、各グループで年間10～12回の研究会を実施した。

他学部の視点から学ぶことで学部間のつながりを意識しながら、児童生徒のキャリア発達を促す指導・支援の在り方について意見交換し、授業改善を行うことができた。

(2) 保護者参加型の緊急時対応訓練の充実

災害時等の緊急時には、保護者の連携の下に対応を進めることができるよう、保護者参加型の緊急時対応訓練を3回実施した。実施後の保護者へのアンケートにより、課題が明確になった。

5月…備蓄食料の炊き出し訓練：体育館での調理と試食(チキンライス、けんちん汁)

11月…児童生徒の引き渡し訓練：避難訓練実施後、体育館での引き渡し

12月…通学バス遅延に関する緊急連絡訓練：一斉メールによる15分以上の遅延の連絡

(3) タブレット端末等ICT機器の活用推進

タブレット端末の活用推進に向け、校内外の講師による講習会や体験研修を実施した。また、アプリケーションの充実や校内の環境整備を行ったことで、授業での活用が増えた。

4月…情報全般に関する講習会(全職員対象)

7月…タブレット体験研修(希望者)：タブレットの基本的な操作について

12月…富山県総合教育センターより講師を招いての研修(希望者)：児童生徒向けの機能の紹介、大型テレビへの接続方法、画像を取り込んでの自作教材製作と発表

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 次年度も縦割りのグループ研究により、学部間のつながりを意識した授業改善を継続していく。意見交換が深まるようグループ数を減らすとともに、「育てたい力」を焦点化して、児童生徒のキャリア発達を促す指導・支援の在り方について、さらに明確にしていく必要がある。

(2) 児童生徒の引き渡しがスムーズで確実に行われるための工夫や、一斉メールを保護者に確実に確認してもらうための工夫が必要である。

(3) 今後もニーズに応じた研修を継続することが大切であり、使用効果を実感している教員からタブレット端末活用の具体的な実践事例を紹介する場を設けていく必要がある。

(様式8)

8 学校アクションプラン

平成28年度 アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	キャリア教育の視点に基づく授業改善の推進
現 状	昨年度の学校課題研究では、キャリア教育の視点に基づいた授業研究として、各学部で授業改善に取り組んだ。それぞれのグループで、朝の活動・朝の会の授業改善を行い、支援のポイントを共通理解し、自分の学級で改善を試みた。実践後半では、他の授業での改善を行い、それらによって各学部の育てたい力を意識した、支援のポイントを整理することができた。研修の成果についてのアンケートでは、授業改善によって活動のねらいが明確になり、支援のポイントを共有することができたという意見が多くあった。また、学部を越えて互見授業をしたり、取組に関する情報の共有をさらに進めたいという意見も聞かれた。
達成目標	・学部縦割りグループ（5グループ編成）での授業改善 ・各グループ年間2～3回の授業改善を実施
方 策	・小・中・高の担当者が含まれる縦割りの研究グループ（肢体不自由学級、生活単元学習、音楽、体育、作業学習の5グループ）を編成する。 ・小・中・高のつながりの中で生きた支援となることを意識しながら、各グループで年2～3回の授業改善を行う。 ・他学部の取組に付いての認識を深め、それぞれの発達段階での支援の在り方について意見交換する。 ・グループ研究を通しての気付き（学部間の共通点・相違点・研究に取り組んだ感想等）をまとめ、報告し、今後の指導の指針を見出していく。
達成度	・5グループに分かれて、各グループ年間10回程度のグループ研究会の開催 ・グループで2～3事例の授業改善（Before授業・After授業）
具体的な取組状況	・3年間の研究の2年次ということで、1年次の研究の概要を再確認し、小・中・高の担当者が含まれる縦割り研究グループで以下の取組を行った ①学習のねらいが、小・中・高でどのようにつながっているのか意見交換した。 ②各グループで、小・中・高それぞれの授業をビデオ撮影して視聴し、目標設定・学習内容・授業の流れ・教材や環境設定等の視点で意見交換し授業改善に取り組んだ。 ③各グループで、全学部に通ずる「育てたい力」・学部や児童生徒の発達段階に応じた「育てたい力」について意見交換をした。 ・外部講師による講演会（8月）を実施し、キャリア教育の視点に基づいた指導・支援について理解を図った。
評 価	A 各グループで年間10回～12回のグループ研究会を実施し、その中で1グループ、2～3事例の授業改善を行った。全体では、13事例の検討を行った。それぞれのグループで、他学部の取組について学び、また他学部の視点から学ぶことで、多角的な視点から児童生徒のキャリア発達を促す指導・支援について意見交換し、授業改善を行うことができた。
学校関係者の意見	・縦割りでの研修が行えるのは、小中高一貫の学校である特別支援学校の特長と言える。今後も推進してほしい。 ・「育てたい力」は何なのかを、さらに明確にして授業改善を行ってほしい。
次年度へ向けての課題	・学部間のつながりを意識した授業改善に取り組んだことは、初めての試みであった。アンケートによる意識調査では、縦割りグループでお互いに他学部の授業を見合ったり、意見交換して授業改善を行ったりしたことは、とても有意義な研修になったという意見が多く聞かれた。しかし、研究の方法については、いろいろな課題が残った。（限られた場面での情報のみで、その教科で育てたい力を確定することは困難である、学部によっては構成メンバーが3～4名と少なく、提供できる授業が少なかった等） ・今年度の成果を活かしながら、縦割りのグループ研究を継続する。意見交換が深まるようグループ数を減らしたり、「育てたい力」をより焦点化したりして、キャリア発達を促す指導・支援の在り方についてさらに明確にできるよう、授業づくりを進めていく。 ・3年計画の研究の最終年として、キャリア発達を促す授業改善の成果をまとめていく。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成28年度 アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	保護者参加型の防災訓練の充実	
現 状	<p>本校では、児童生徒や職員を対象に火災や地震発生時の避難訓練や、児童生徒が行方不明になった時、不審者が学校敷地内に侵入してきた時の対応訓練など、様々な防災訓練を計画的に実施している。</p> <p>その中で昨年度は備蓄食料の炊出し訓練と、避難訓練後の児童生徒の引き渡し訓練に、保護者の参加を募って実施することができ、有意義な活動となった。</p> <p>しかし、通学バスについては緊急時の連絡体制は整備していたものの、事故等発生時に備えた訓練を実施したことは無かった。昨年度、通学バスが接触事故に遭遇した際は、乗車人数も少なく、緊急時の対応を取って事なきを得たが、これを想定した訓練の実施が課題として残った。</p> <p>災害が発生した時に児童生徒の安全確保のためには保護者の協力を仰ぐことは不可欠であることから、保護者への連絡方法や児童生徒の保護者への安全な引き渡し方法などを保護者に周知し、保護者の防災意識の向上を図ることが求められる。</p>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者参加型の防災訓練を年間3回実施する。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の災害発生時における対応について保護者に周知する。 ・保護者参加型の防災訓練を3回実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 備蓄食料の炊出し訓練 ② 児童生徒の引き渡し訓練 ③ 通学バスの遅延に関する緊急連絡訓練 ・災害発生時の保護者への緊急連絡の方法（緊急メール）について理解を求め、登録を呼びかける。 ・各訓練後にアンケート等で保護者の意見を集め今後に生かす。 	
達成度	3回の訓練をすべて実施	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> ① 備蓄食料の炊出し訓練 …平成28年5月14日（土） 参加率約40% 高等部の保護者・生徒8名が調理を担当し、運動会準備のためのPTA奉仕活動後に体育館で参加者全員で試食した。 ② 児童生徒の引き渡し訓練 …平成28年11月2日（水） 参加率約40% 児童生徒の避難訓練実施後、体育館に児童生徒を移動させ、保護者へのメール通知を行い引き取りに来てもらった。 ③ 通学バスの遅延に関する緊急連絡訓練 …平成28年12月14日（水）メール登録率90% 下校バスの学校発車が15分以上遅れるとの想定で、15：30に担当教頭より一斉メールを送信した。 	
評 価	A	3回の訓練をすべて実施した。その後アンケートを実施・集約することで、今後取り組むべき課題が明確になってきた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のメニューが食べにくい子供もいると思われるので、子供たちの実態に合わせて栄養補助食品やおかゆ、ゼリー等の準備も必要である。 ・地域の協力も得ながら、炊き出し訓練を含めた宿泊型の防災訓練も必要ではないか。 	
次年度に向けての課題	3回の訓練後に行った保護者アンケートから、引き渡し訓練では「子供を引き渡されるまでに少し時間がかかった」との意見があった。また、通学バスの遅延に関する緊急連絡訓練では、送られてきたメールをすぐに確認しなかった（できなかった）保護者がいたことが分かった。次年度への課題として対応を検討していきたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	その他	
重点課題	タブレット端末の活用推進	
現 状	<p>近年、特別支援教育でのICT機器活用について、国語、算数等の机上学習から音楽、体育等の実技指導・日常生活の指導など様々な学習場面で有効性が報告されている。特にタブレット端末は、持ち運びや扱い易さから個別学習や協働学習場面で利活用が進んでいる。</p> <p>本校でも27年度末までに3台の公有タブレット端末が配置された。これまで、一部の教員が個人所有のタブレット端末を使用し、肢体不自由のある児童生徒の学習を中心に効果を上げてきた。今後は、さらに多くの教員が様々な実態の児童生徒の学習場面で活用できるように効果的な使用方法など情報共有しながら、使用機会を増やしていく必要がある。</p>	
達成目標	・タブレットの使用方法や活用についての講習会や報告会 …年間3回以上の実施	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末が利用しやすいように、環境を整える。 ・児童生徒の実態に合ったアプリを調査し、紹介する。 ・利用経験のない教員向けに、利用体験を中心とする研修会を実施する。 ・外部講師によるタブレット端末の有効活用についての研修会を実施する。 ・具体的な実践事例について紹介し、情報の共有を図る。 	
達 成 度	<p>タブレットの使用方法や活用についての講習会の実施 …3回（4月・7月・12月）</p> <p>タブレットの活用や事例についての報告 …1回（3月に予定）</p>	
具体的な取組状況	<p>◎講習会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報全般に関する講習会<全職員73名対象> …4月 <ul style="list-style-type: none"> ・本校のタブレット及び周辺機器の紹介 ・大型テレビへの接続について ○本校職員（情報図書部員）による、タブレット体験研修<希望者44名> …7月 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの基本的な操作の仕方（起動・終了・音量調節・カメラ操作等） ・実際の操作体験 ・アプリ体験 ○富山県総合教育センターより講師を迎えての、タブレットの活用についての体験研修<希望者34名> …12月 <ul style="list-style-type: none"> ・操作に支援が必要な児童生徒向けの機能の紹介 ・大型テレビへの無線接続（アップルTV）の操作方法 ・教科等ですぐに使用できるアプリの紹介・画像を取り込んでの自作教材製作と発表 <p>○全体研修会でタブレットの活用や事例について報告 …3月</p> <p>◎環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動画用に128GBのタブレットを2台購入 …9月 ○各学部の大型テレビにタブレット用のケーブルを常時接続 …7月 使用頻度が増えたため、電子黒板とプロジェクター用の接続ケーブルを準備 …2月 ○大型テレビへの無線接続機器（アップルTV）の導入 …2月 ○教員の希望によるアプリや外部からの情報で有効と考えられるアプリのインストール …年間を通して 	
評 価	A	<p>予定した講習会や報告会をすべて実施したことで、教員のタブレット操作に対する抵抗感が減った。また、授業で有効に使えるアプリを増やしたこと、タブレットの台数を増やしたこと、大型テレビに接続しやすくなったことなどにより、授業で活用する教員が増えている。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・何を目的として使用するのかを明確にしないと、タブレットの台数だけが増えることになる。目的やポイントを絞って使用することが必要である。 ・アプリを校内でどう共有していくか。効果的な使用方法の共有を進めてほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もニーズに応じた研修を継続するとともに、具体的な実践事例を紹介し、使用効果を実感している教員の声や児童生徒の様子を知ってもらう場を設ける必要がある。 ・16GBのタブレットの容量が逼迫しているので、画像中心の端末とアプリ中心の端末の棲み分けをする必要がある。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）